

人 ③ 中の口沿線最後の船大工

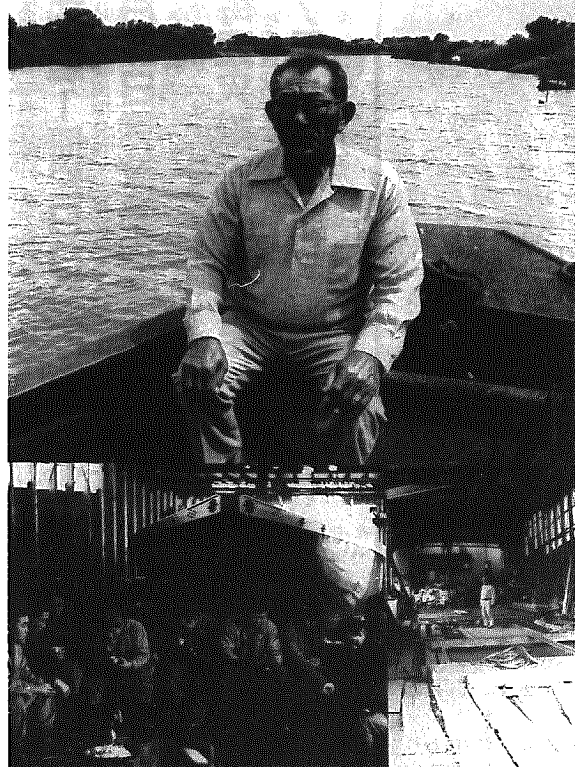
小林梅八さん
七十歳 新田町

黒崎町に造船所がある。どこに、大野の新田町に。「梅八造船所」と看板が立っている。看板に偽りは：「ねてば。ほんどらて」と笑顔で迎えてくれた人が、小林梅八さん、最後の船大工とよばれる人だ。

大野は信濃川と中の口の川の合流点で、昔は河川交通の要衝だった。遠くは会津とも交易していた。ものが集まり市がたち花柳界ができるほどだった。「戦中前までらね。にぎわったのは。たしか黒埼で八軒船大工があった。うちはオレで二代目だけど明治の前からやっていた」と言う。

小林さんが造った船は川船と田んぼ船。川船はコーレンボとも呼ばれ、米や人を運んだ。長さ十二間幅八尺ほど。田んぼ船は戦前の写真によく見られる。腰まで泥に埋まって稲刈りをしている農民とその脇にある細長い船。船には稲が山と積まれている。蒲原特有の風景だった。

「田んぼ船は一年に最高百ばい造った。昭和十七年の帳面に四ツ郷屋農協に七十ばい。升湯農協に三十ばいとあつたね。まあその、



砂利採取船に乗る小林さん。戦前はこの中の口川をたくさんの船が行き交った。船には米や野菜はもちろん、雑貨や砂利、灰、原油などが積まれた。新潟市へ雪を運ぶ雪船もあったという。写真右上は今の梅八造船所のドック、左下は昭和30年代のころ、船が完成したころ。

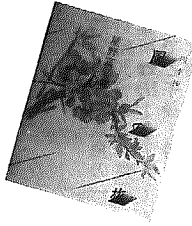
そう手間もかからなかったし。この百姓屋も一人一ばいは持ってた。いまの車らくてね」時代は変わる。区画整備が進み泥田は美田に、川船のかわりは自動車に。同業者が動めたり、商売がえを考えたところ梅八造船所では昭和三十三年、鉄製の船を造った。二十トンの砂利採取船である。これが当たった。「いいとき

は二十人も使った。税務署ににらまれて、有限会社にした。鉄船は百十二ばい造った。おもっしかったわね。が、四十年代に入り、川の砂利採取量が規制された。「いまじゃ考えらんね」と続けた。たしかにそうだ。船頭町とさえよばれた新田町にその面影はない。梅八造船所から進出した鉄船は二年前の春。三年ぶりだった。「あれが最後にしたくないねえ」と小林さん。実質的な経営は若手に譲っている。いま梅八造船所のいさかさかきびついたドックには修理する船が入ってくるだけだ。「じょうぶに造ったからね」と笑う。ほかに造船所は新津市に一つあるだけだ。「ま、いくて」と別れしなにつぶやいた。何がよかつたのか、聞かなかった。

(文・五十嵐広報担当)

ほんの一冊

風の旅 (立風書房) 星野 富弘



私の「いつか」は少年のころ夢みたような出世や地ませんでした。自分だけ生きてると錯角していた小さな私と大きな愛との出会いだったのです。という著者は大学を卒業後、体育教師として赴任した中学校で事故に遭い、手足の自由を奪われてしま車イスの生活をしています。この本は詩画集です。口づかの花があります。美しさ、強さが語りかけてくるような花です。色づかいもやさしさがあふれています。人は一人で生きていけないと静かに強く訴えています。読みながら涙が出ました。温かさが残りました。少し背筋を伸ばそう。深呼吸しましょう。前を向きましょう。明るい日差しを体で感じましょう。そんな気持ちにさせた本です。(紹介者：坂井シズ子)

〈人の動き〉

	前年	同月比
5月末日現在 (前年比)	414	[+]
人口	22,594 (+28)	[+]
男	11,105 (+11)	[+]
女	11,489 (+17)	[+]
世帯	5,918 (±0)	[+]
5月1日~末日	71	
出生	23	転入
婚姻	17	転出
死亡	9	



名産町民で三十二年間県会議員として活躍された岡田幸平さんは、四年前の本紙インタビューで、現在の問題に関係する発言をされている。一つは新潟市との合併問題だが、「昭和三十一年、内野や赤塚が新潟市に合併したとき、県はむしろ黒埼と亀田を合併させたかった。新潟市は亀田とはしたくないが、黒埼ならいいという考えだった。ただ無理には思っていないかったよう。黒埼も内野など違って働かかかなかった。合併はなかった。西蒲北部の町村が新潟市に合併してしまい、岡田さんは、選挙地盤がなくなり実に困った。選挙はいつも厳しくて、そのたびにやめようと考えた」と話している。インタビューの最後で「思い出ではないのですが、一回として選挙違反を犯さなかったということ。をたいへんよかったと思っています。選挙だけは公明正大に行うべきものだと思います。いまはなかに候補者も有権者もちよつと持っている風潮がありますが、困ったことだと思えます。(広報くろさき二二三号に掲載)。

マご意見、情報お待ちしています

広報にあなたの意見や質問をお寄せください。今後、取り上げる予定のテーマはわたしと戦争、ボランティア活動、いま熟年時代 (お年寄り、マイホームの建て方。また、ユースや人を紹介ください。今月号の八ページのあじさいは偶然に発見し「あつ」と驚いてしまいました。黒埼町でもあまり知られていないことがまだまだたくさんあるような気がします。

